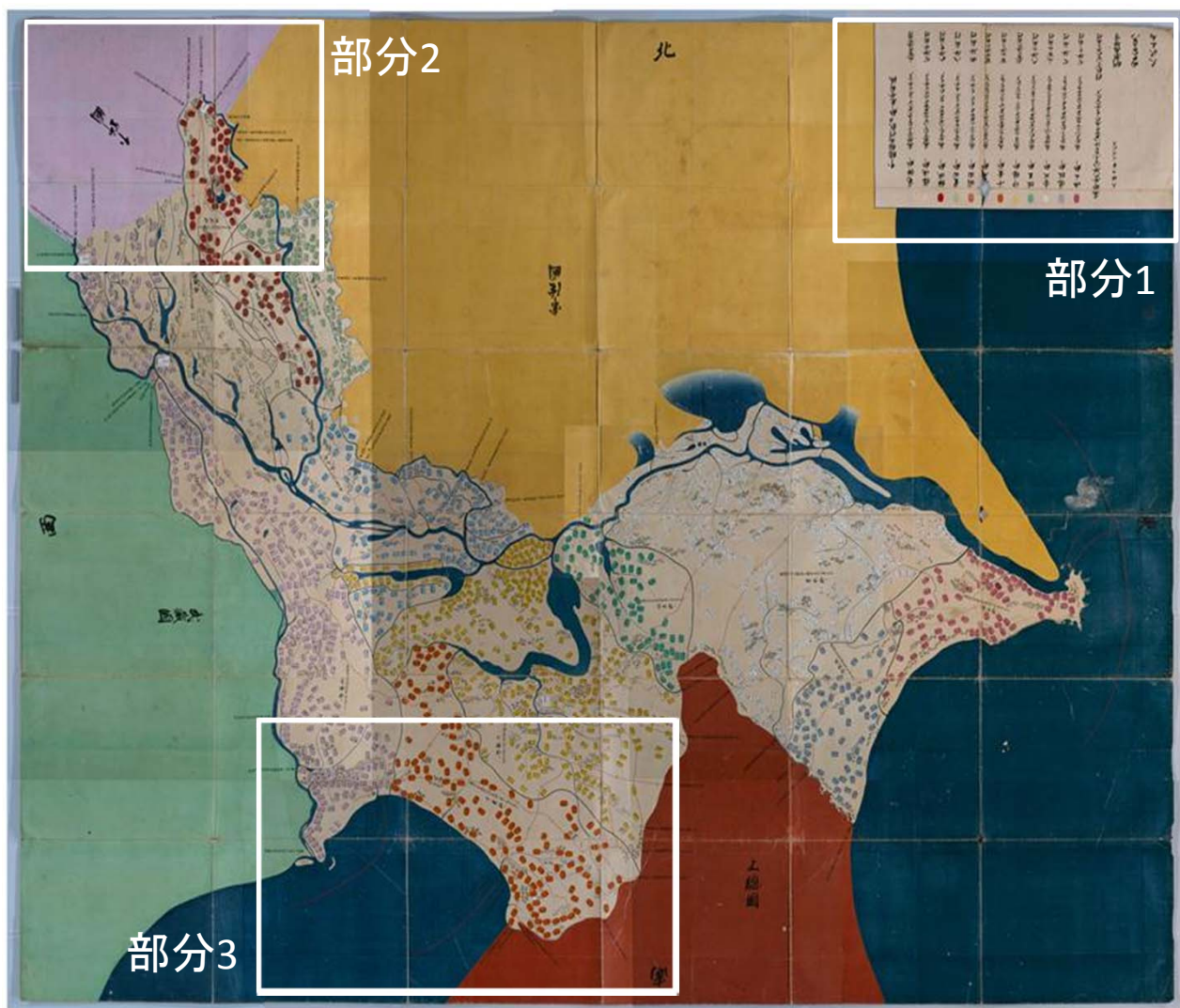
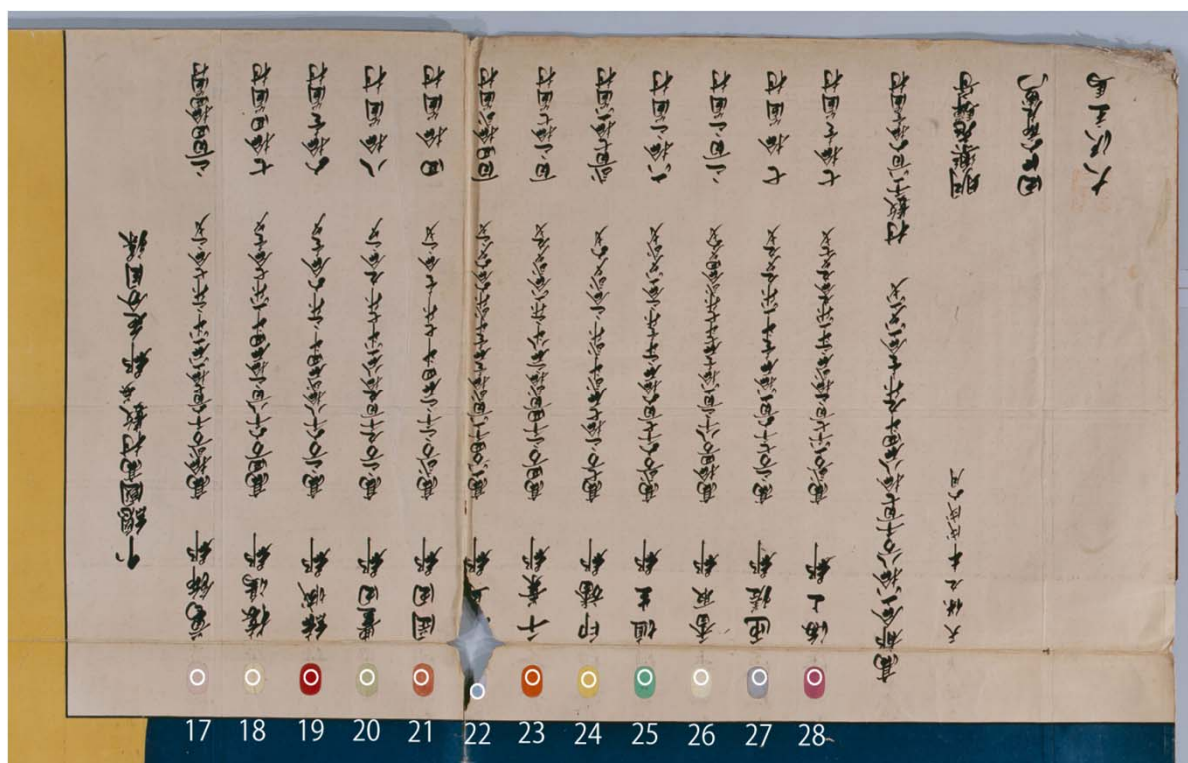


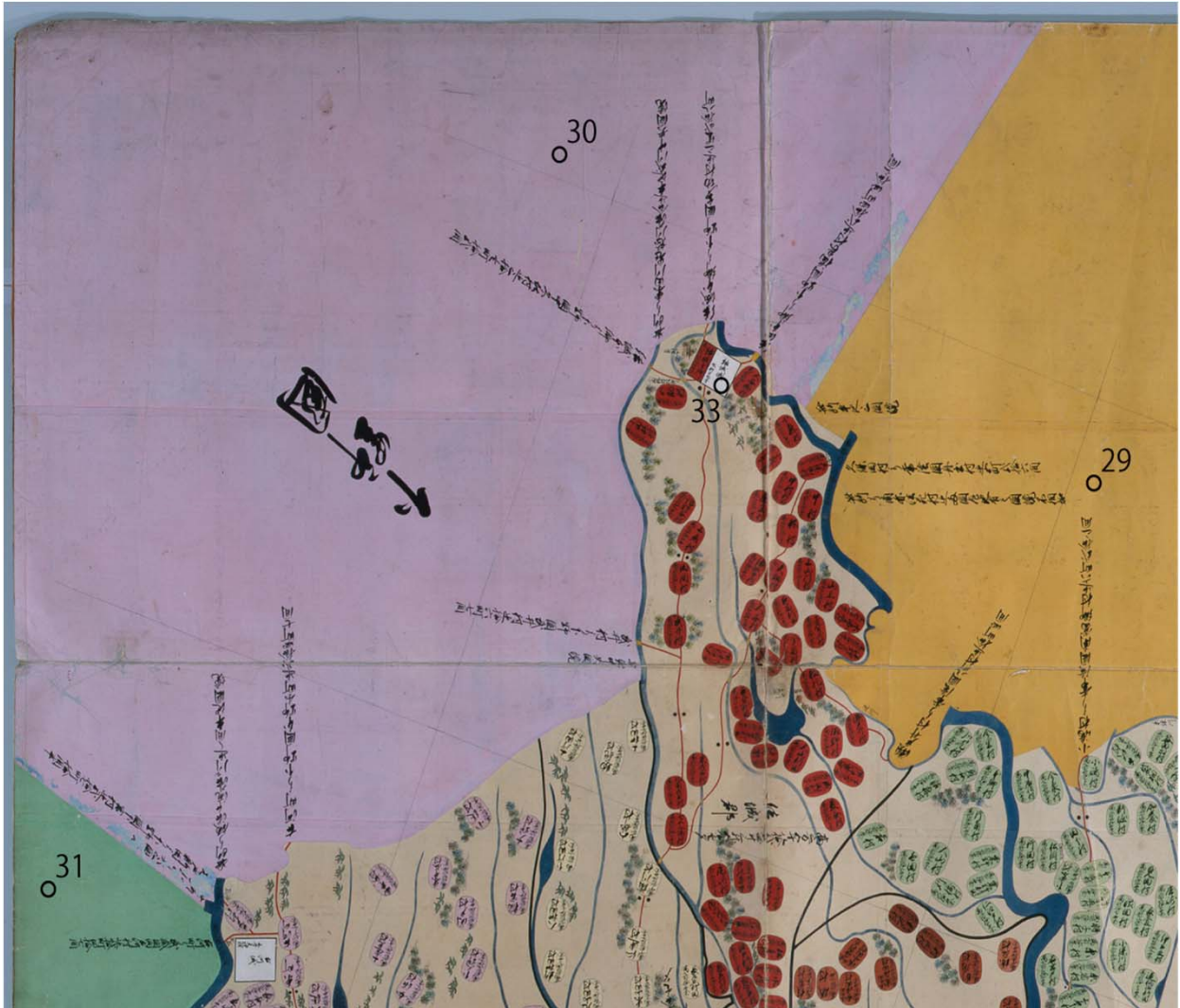
特083-0001-36 天保下総国絵図(勘定所本)



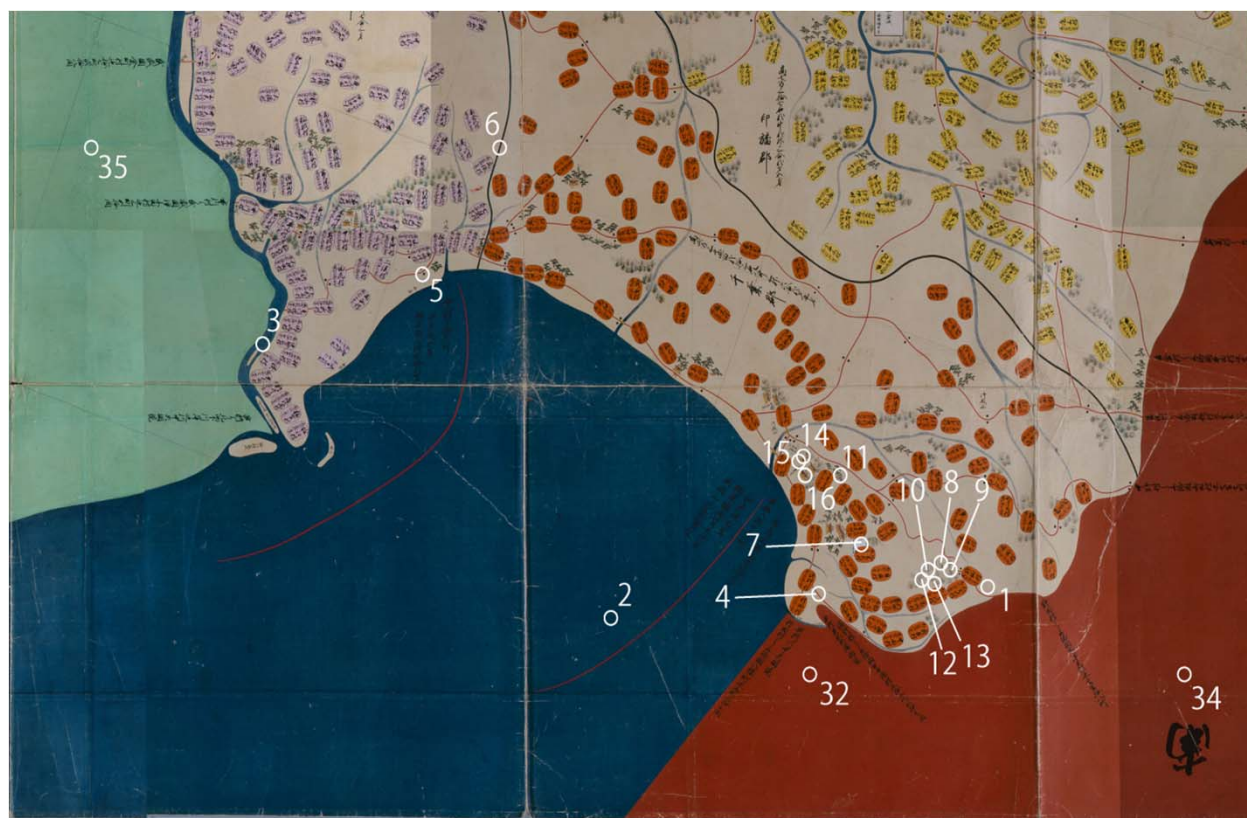
部分1



部分2



部分3

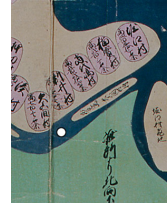


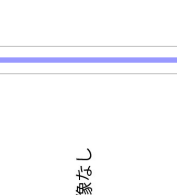


No.	測定箇所		色	No.	測定箇所		色
1	地色		一	19	〃	結城	濃赤
2	海		薄青	20	〃	豊田	薄緑
3	川		薄青	21	〃	岡田	薄橙
4	道		赤	22	〃	相馬	薄水
5	一里塚		黒	23	〃	千葉	橙
6	郡境		黒	24	〃	印旛	黄
7	山(古城)		薄緑	25	〃	埴生	緑
8	樹木	葉	薄緑	26	〃	香取	薄黄
9	〃	葉	薄水	27	〃	匝瑳	灰
10	〃	葉	薄灰	28	〃	海上	薄赤
11	〃	松	薄緑	29	国	常陸	黄土
12	〃	幹	黒	30	〃	下野	薄桃
13	〃	葉	薄赤茶	31	〃	武蔵	薄緑
14	建造物	屋根	薄赤茶	32	〃	上総	赤茶
15	〃	柱	赤茶	33	建造物	城	白
16	〃	板	薄黄	34	国	上総	赤茶
17	村形	葛飾	薄桃	35	〃	武蔵	白緑
18	〃	猿嶋	薄黄				

[illegible]

ポイント№	3	モチーフ	川	色	薄青色	推定色料名	藍+胡粉か
図録調査日	2009/01/14		2011/02/22		426	DICNo.	

肉眼で薄青色、デジカメ (GX-100) の観察で薄青色を確認。蛍光X線分析は無反応、可視反射分光スペクトルは、indigoを主成分とする染料の特徴を示していることから、藍と推定した。

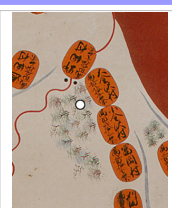
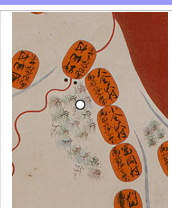
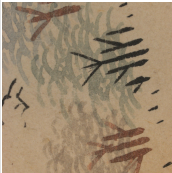
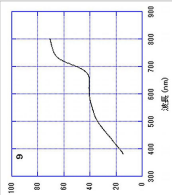
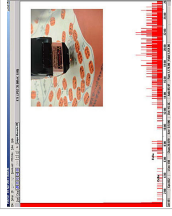
絵図 (部分)	デジカメ (GX-100)	×100 (ピーク)	×175 (キーエンス)	赤外線写真 (部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
		画像なし	画像なし	画像なし			主成分: 検出せず
	2011/02/22撮影	未調査	未調査	未調査	2011/02/22測定	2011/02/22測定	

特083-0001-36		天保下総国絵図(勘定所本)		1838		年		所蔵機関		国立公文書館	
ポイント№		4		モチーフ		道		色		赤色	
推定色料名				朱(辰砂)か				Dic№		197	
絵図(部分)		デジカメ(GX-100)		×100(ピーク)		×175(キーエンス)		赤外線写真(部分)		可視反射スペクトル	
2009/01/14		2011/02/22		2011/02/22撮影		未調査		未調査		2011/02/22測定	
主成分: Hg											
メモ											


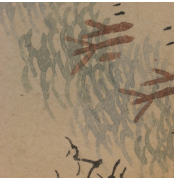

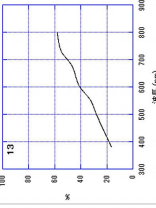
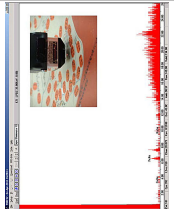

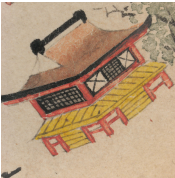

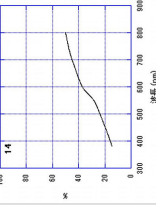
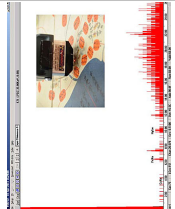
特083-0001-36		天保下総国絵図(勘定所本)		1838		年		所蔵機関		国立公文書館	
ポイント№		5		モチーフ		一里塚		色		黒色	
推定色料名				墨か				Dic№		582	
絵図(部分)		デジカメ(GX-100)		×100(ピーク)		×175(キーエンス)		赤外線写真(部分)		可視反射スペクトル	
2009/01/14		2011/02/22		2011/02/22撮影		未調査		未調査		2011/02/22測定	
主成分: 検出せず											
メモ											






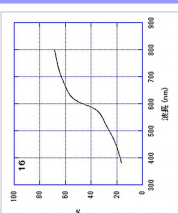
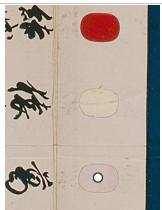
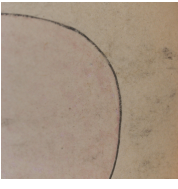



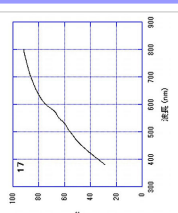
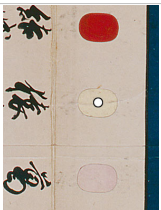




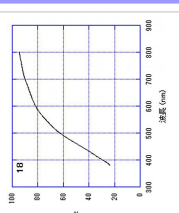
特083-0001-36		天保下総国絵図(勘定所本)		1838		年		所蔵機関		国立公文書館	
ポイント№		6		モチーフ		郡境		色		黒色	
推定色料名				墨か				Dic№		582	
絵図(部分)		デジカメ(GX-100)		×100(ピーク)		×175(キーエンス)		赤外線写真(部分)		可視反射スペクトル	
2009/01/14		2011/02/22		2011/02/22撮影		未調査		未調査		2011/02/22測定	
主成分: 検出せず											
メモ											


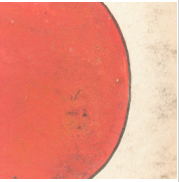
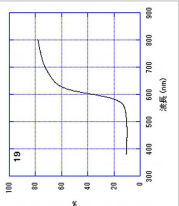
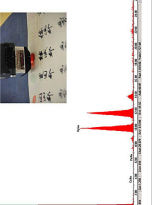
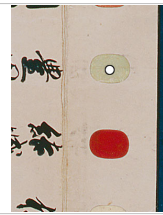
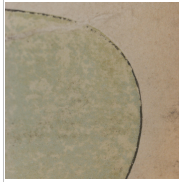
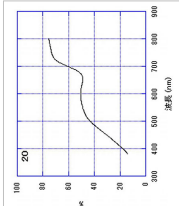
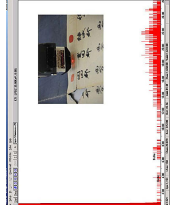
[illegible]


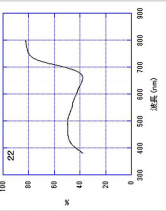
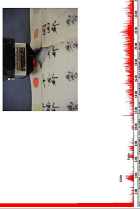

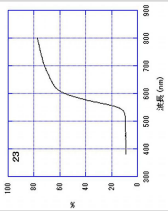
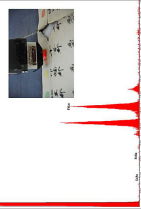
ポイント№	9	葉	モチーフ	2009/01/14	2011/02/22	色	薄青色	推定色料名	藍か	蛍光X線分析は無反応、可視反射分光スペクトルは、indigoを主成分とすることから、藍と推定した。
絵図(部分)		デジタルカメラ(GX-100)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	主成分: 検出せず	メモ	
			画像なし	画像なし	画像なし				2011/02/22撮影	2011/02/22測定
			未調査	未調査	未調査	2011/02/22測定				


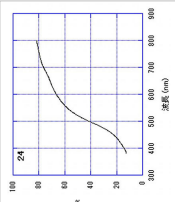
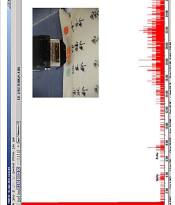
特083-0001-36		天保下総国絵図(勘定所本)		1838		作成年代		1838		年		所蔵機関		国立公文書館			
ポイント№		10		モチーフ		葉		色		薄灰色		推定色料名		薄墨か			
絵図調査日		2009/01/14		2011/02/22				DICH№		618		肉眼で薄灰色、デジカメ(GX-100)の観察で薄黒色を確認。蛍光X線分析は無反応を示していることから、墨と推定した。					
絵図(部分)		デジカメ(GX-100)		×100(ピーク)		×175(キーエンス)		赤外線写真(部分)		可視反射スペクトル		蛍光X線スペクトル		メモ			
																主成分: 検出せず	
2011/02/22撮影		未調査		未調査		未調査		未調査		2011/02/22測定		2011/02/22測定					
特083-0001-36		天保下総国絵図(勘定所本)		1838		作成年代		1838		年		所蔵機関		国立公文書館			
ポイント№		11		モチーフ		葉(松)		色		薄緑色		推定色料名		藍+藤黄か			
絵図調査日		2009/01/14		2011/02/22				DICH№		393		肉眼で薄緑色、デジカメ(GX-100)の観察で紙地、薄緑色を確認。蛍光X線分析は無反応、可視反射分光スペクトルは、indigoを主成分とする染料と黄色系染料との混色の特徴を示していることから、藍と藤黄の混色と推定した。					
絵図(部分)		デジカメ(GX-100)		×100(ピーク)		×175(キーエンス)		赤外線写真(部分)		可視反射スペクトル		蛍光X線スペクトル		メモ			
																主成分: 検出せず	
2011/02/22撮影		未調査		未調査		未調査		未調査		2011/02/22測定		2011/02/22測定					
特083-0001-36		天保下総国絵図(勘定所本)		1838		作成年代		1838		年		所蔵機関		国立公文書館			
ポイント№		12		モチーフ		幹		色		黒色		推定色料名		墨か			
絵図調査日		2009/01/14		2011/02/22				DICH№		未調査		肉眼で黒色、デジカメ(GX-100)の観察で黒色を確認。蛍光X線分析は無反応を示していることから、墨と推定した。					
絵図(部分)		デジカメ(GX-100)		×100(ピーク)		×175(キーエンス)		赤外線写真(部分)		可視反射スペクトル		蛍光X線スペクトル		メモ			
																主成分: 検出せず	
2011/02/22撮影		未調査		未調査		未調査		未調査		2011/02/22測定		2011/02/22測定					

絵図名	特083-0001-36						天保下総国絵図(勘定所本)						作成年代		1838年		所蔵機関		国立公文書館	
ポイントNo.	13		モチーフ		幹		色		赤茶色		推定色料名		朱+墨か							
絵図調査日	2009/01/14		2011/02/22				DICNo.		326		肉眼で赤茶色、デジカメ(GX-100)の観察で赤茶色を確認。蛍光X線分析は微量のHg元素が検出したことから、朱と墨の混色と推定した。									
絵図(部分)							×100(ピーク)		×175(キーエンス)		赤外線写真(部分)		可視反射スペクトル		蛍光X線スペクトル		微量成分 : Hg		メモ	
			2011/02/22撮影		未調査		未調査		未調査		画像なし		13 		2011/02/22測定				2011/02/22測定	
ポイントNo.	14		モチーフ		屋根		色		赤茶色		推定色料名		朱+墨か							
絵図調査日	2009/01/14		2011/02/22				DICNo.		344		肉眼で赤茶色、デジカメ(GX-100)の観察で赤茶色を確認。蛍光X線分析は微量のHg元素が検出したことから、朱と墨の混色と推定した。									
絵図(部分)							×100(ピーク)		×175(キーエンス)		赤外線写真(部分)		可視反射スペクトル		蛍光X線スペクトル		微量成分 : Hg		メモ	
			2011/02/22撮影		未調査		未調査		未調査		画像なし		14 		2011/02/22測定				2011/02/22測定	
絵図名	特083-0001-36						天保下総国絵図(勘定所本)						作成年代		1838年		所蔵機関		国立公文書館	

特083-0001-36		天保下総国絵図(勘定所本)		1838		年		所蔵機関		国立公文書館	
ポイントNo.		16		モチーフ		壁他		色		黄色	
推定色料名		藤黄か		色		黄色		推定色料名		藤黄か	
絵図調査日		2009/01/14		2011/02/22		2011/02/22		208		DICHNo.	
絵図(部分)		デジカメ(GX-100)		×100(ピーク)		×175(キーエンス)		赤外線写真(部分)		可視反射スペクトル	
											
2011/02/22撮影		未調査		未調査		未調査		未調査		2011/02/22測定	
主成分: 検出せず										2011/02/22測定	
メモ										Hgは柱部分の反応か	
特083-0001-36		天保下総国絵図(勘定所本)		1838		年		所蔵機関		国立公文書館	
ポイントNo.		17		モチーフ		村形(葛飾郡)		色		薄桃色	
推定色料名		臙脂+胡粉か		色		薄桃色		推定色料名		臙脂+胡粉か	
絵図調査日		2009/01/14		2011/02/22		2011/02/22		2		DICHNo.	
絵図(部分)		デジカメ(GX-100)		×100(ピーク)		×175(キーエンス)		赤外線写真(部分)		可視反射スペクトル	
											
2011/02/22撮影		未調査		未調査		未調査		未調査		2011/02/22測定	
主成分: 検出せず										2011/02/22測定	
メモ										微量成分: Ca	
特083-0001-36		天保下総国絵図(勘定所本)		1838		年		所蔵機関		国立公文書館	
ポイントNo.		18		モチーフ		村形(猿嶋郡)		色		薄黄色	
推定色料名		丹+藤黄+胡粉か		色		薄黄色		推定色料名		丹+藤黄+胡粉か	
絵図調査日		2009/01/14		2011/02/22		2011/02/22		9+白		DICHNo.	
絵図(部分)		デジカメ(GX-100)		×100(ピーク)		×175(キーエンス)		赤外線写真(部分)		可視反射スペクトル	
											
2011/02/22撮影		未調査		未調査		未調査		未調査		2011/02/22測定	
主成分: 検出せず										2011/02/22測定	
メモ										微量成分: Pb 微量成分: Ca	

絵図名	特083-0001-36	天保下総国絵図(勘定所本)	作成年代	1838 年	所蔵機関	国立公文書館
ポイントNo.	19	モチーフ	モチーフ	村形(結城郡)	色	赤色
推定色料名					朱(辰砂)か	
絵図調査日	2009/01/14	2011/02/22			DICNo.	197
絵図(部分)	デジタルカメラ(GX-100)	×100(ピーク)	×176(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル
		画像なし	画像なし	画像なし		
	2011/02/22撮影	未調査	未調査	未調査	2011/02/22測定	2011/02/22測定
					主成分: Hg	
絵図名	特083-0001-36	天保下総国絵図(勘定所本)	作成年代	1838 年	所蔵機関	国立公文書館
ポイントNo.	20	モチーフ	モチーフ	村形(豊田郡)	色	薄緑色
推定色料名					藍+藤黄+胡粉か	
絵図調査日	2009/01/14	2011/02/22			DICNo.	358
絵図(部分)	デジタルカメラ(GX-100)	×100(ピーク)	×176(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル
		画像なし	画像なし	画像なし		
	2011/02/22撮影	未調査	未調査	未調査	2011/02/22測定	2011/02/22測定
					微量成分: Ca	

絵図名	特083-0001-36	天保下総国絵図(勘定所本)	作成年代	1838	年	所蔵機関	国立公文書館									
ポイントNo.	22	モチーフ	モチーフ	村形(相馬郡)	色	薄青色	推定色料名	藍+胡粉か、								
絵図調査日	2009/01/14	2011/02/22			DICNo.	21		肉眼で薄青色、デジカメ(GX-100)の観察で薄青色を確認。蛍光X線分析は微量のCa元素が検出、可視反射分光スペクトルは、indigoを主成分とする染料の特徴を示していることから、藍と胡粉の混色と推定した。								
絵図(部分)		デジカメ(GX-100)	×100(ピーク)	×176(キーエンス)	赤外線写真(部分)	画像なし	可視反射スペクトル	22		蛍光X線スペクトル		微量成分:Ca				メモ
		2011/02/22撮影	未調査	未調査	未調査	画像なし	画像なし	2011/02/22測定		2011/02/22測定						
絵図名	特083-0001-36	天保下総国絵図(勘定所本)	作成年代	1838	年	所蔵機関	国立公文書館									
ポイントNo.	23	モチーフ	モチーフ	村形(千葉郡)	色	橙色	推定色料名	丹か								
絵図調査日	2009/01/14	2011/02/22			DICNo.	119		肉眼で橙色、デジカメ(GX-100)の観察で橙色と確認。蛍光X線分析は主にPb元素が検出したことから、丹と推定した。								
絵図(部分)		デジカメ(GX-100)	×100(ピーク)	×176(キーエンス)	赤外線写真(部分)	画像なし	可視反射スペクトル	23		蛍光X線スペクトル		主成分:Pb				メモ
		2011/02/22撮影	未調査	未調査	未調査	画像なし	画像なし	2011/02/22測定		2011/02/22測定						
絵図名	特083-0001-36	天保下総国絵図(勘定所本)	作成年代	1838	年	所蔵機関	国立公文書館									

ポイント№	24	モチーフ	村形(印旛郡)	色	黄色	推定色料名	藤黄+胡粉か
会図調査日	2009/01/14	2011/02/22		DICNo.	9	肉眼で黄色、デジカメ(GX-100)の観察で黄色を確認。蛍光X線分析は微量のCa元素が検出したことから、藤黄と胡粉の混色と推定した。	
絵図(部分)			デジカメ(GX-100)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分) 画像なし	
可視反射スペクトル			蛍光X線スペクトル			微量元素:Ca 胡粉の上から藤黄か、	
撮影	2011/02/22撮影		調査	未調査		2011/02/22測定	

絵図名

特083-0001-36

天保下総国絵図(勘定所本)

作成年代

1838 年

所蔵機関

国立公文書館

ポイントNo.

25

モチーフ

村形(埴生郡)

色

緑色

推定色料名

緑青か

絵図調査日

2009/01/14

2011/02/22

デジタルカメラ(GX-100)


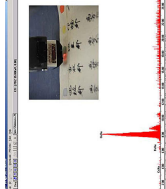
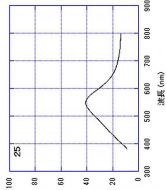





×100(ピーク)

×175(キーエンス)

赤外線写真(部分)

可視反射スペクトル

蛍光X線スペクトル



2011/02/22撮影

未調査

画像なし

画像なし

画像なし

2011/02/22測定

2011/02/22測定

2011/02/22測定

主成分:Cu

メモ

ポイントNo.

26

モチーフ

村形(香取郡)

色

薄黄色

推定色料名

藤黄+胡粉か

絵図調査日

2009/01/14

2011/02/22

デジタルカメラ(GX-100)

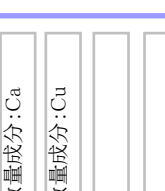
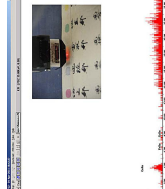
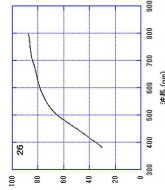



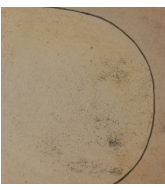

×100(ピーク)

×175(キーエンス)

赤外線写真(部分)

可視反射スペクトル

蛍光X線スペクトル



2011/02/22撮影

未調査

画像なし

画像なし

画像なし

2011/02/22測定

2011/02/22測定

2011/02/22測定

微量成分:Ca

微量成分:Cu

メモ

凡例は薄黄色だが、絵図上では胡粉のように見える
Cuは、埴生郡村形の影

絵図名

特083-0001-36






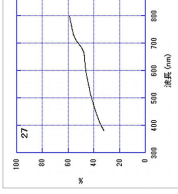
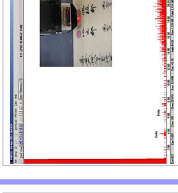
天保下総国絵図(勘定所本)

作成年代


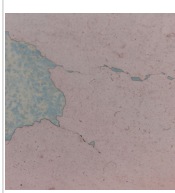
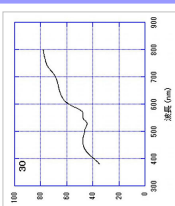
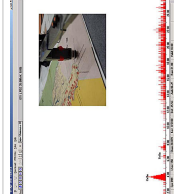

1838 年

所蔵機関

国立公文書館




ポイント№	27	モチーフ	村形(匠達郡)	色	灰色	推定色料名	墨+藍+胡粉か															
会図調査日	2009/01/14		2011/02/22	DIC№	650	肉眼で灰色、デジカメ(GX-100)の観察で白色と黒色を確認。蛍光X線分析は微量のCa元素が検出、可視反射分光スペクトルは、indigoを主成分とする染料の特徴を示したことから、藍と胡粉と墨の混色と推定した。																
絵図(部分)			デジカメ(GX-100)			×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)			可視反射分光スペクトル			蛍光X線スペクトル			微量成分:Ca			メモ		
2011/02/22撮影	未調査	未調査	未調査	未調査	未調査	2011/02/22測定	2011/02/22測定															

[illegible]

ポイントNo.	30	モチーフ	国(下野)	色	桃色	推定色料名	膳脂+胡粉か
会図調査日	2009/01/14	2011/02/22		DICNo.	23	デジカメ (GX-100) の観察で薄桃色を確認。蛍光X線分析は少量のCa元素が検出されたことから、膳脂と胡粉の混色と推定した。	
絵図(部分)			デジカメ(GX-100)			×100(ピーク)	×175(キーエンス)
			画像なし	画像なし	画像なし	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル
							
							
						少量成分:Ca	蛍光X線スペクトル 
							メモ 剥落部分下に水色が見える
							2011/02/22撮影 未調査 未調査 未調査 2011/02/22測定 2011/02/22測定

特083-0001-36		天保下総国絵図(勘定所本)		作成年代		年		所蔵機関		国立公文書館	
31		モチーフ		国(武蔵)		色		薄緑色		推定色料名	
2009/01/14		2011/02/22				390		DICNo.		丹+藤黄地に白緑か、肉眼で薄緑色、デジカメ(GX-100)の観察で緑色、薄黄色を確認。蛍光X線分析は主にCu・微量のPb元素が検出したことから、丹と藤黄地に白緑と推定した。	
絵図(部分)		デジカメ(GX-100)		×100(ピーク)		×175(キーエンス)		赤外線写真(部分)		可視反射スペクトル	
		2011/02/22撮影		未調査		未調査		未調査		2011/02/22測定	
メモ											
特083-0001-36		天保下総国絵図(勘定所本)		作成年代		年		所蔵機関		国立公文書館	
32		モチーフ		国(上総)		色		赤茶色		推定色料名	
2009/01/14		2011/02/22				237		DICNo.		丹+胡粉地に弁柄か、肉眼で赤茶色、デジカメ(GX-100)の観察で橙色地に赤茶色を確認。蛍光X線分析は微量のPb・Ca・Fe元素が検出したことから、丹と胡粉の混色地にベンガラと推定した。	
絵図(部分)		デジカメ(GX-100)		×100(ピーク)		×175(キーエンス)		赤外線写真(部分)		可視反射スペクトル	
		2011/02/22撮影		未調査		未調査		未調査		2011/02/22測定	
メモ											

ポイント№	33	モチーフ	城	色	白色	推定色料名	胡粉か、
会図調査日	2009/01/14		2011/02/22	DICNo.	583	肉眼で白色確認。蛍光X線分析は微量のCa元素が検出したことから、胡粉と推定した。	

絵図(部分)		×100(ピーク)		×175(キーエンス)		赤外線写真(部分)		可視反射スペクトル		蛍光X線スペクトル		メモ	
		画像なし	画像なし	画像なし	画像なし	画像なし	画像なし	画像なし			微量成分 : Ca		
		未調査	未調査	未調査	未調査	未調査	未調査	未調査					

特083-0001-36

天保下総国絵図(勘定所本)

作成年代

年

所蔵機関

国立公文書館

ポイント№

34

モチーフ

国(上総)

色

赤茶色

推定色料名

丹+胡粉地に弁柄か

絵図調査日

2009/01/14

2011/02/22

肉眼で赤茶色、デジカメ(GX-100)の観察で橙色地に赤茶色を確認。蛍光X線分析は少量のPb・Fe・微量のCa元素が検出したことから、丹と胡粉の褐色地にベンガラと推定した。

絵図(部分)

×100(ピーク)

×175(キーエンス)

画像なし

画像なし

画像なし

未調査

未調査

未調査

赤外線写真(部分)

画像なし

未調査

可視反射スペクトル

画像なし

未調査

蛍光X線スペクトル

少量成分:Fe

少量成分:Pb

微量成分:Ca

2011/02/22測定

メモ

ポイント№

35

モチーフ

国(武蔵)

色

薄緑色

推定色料名

丹+藤黄地に白緑か

絵図調査日

2009/01/14

2011/02/22

肉眼で薄緑色、デジカメ(GX-100)の観察で緑色、薄黄色を確認。蛍光X線分析は主にCu・少量のZn・微量のPb元素が検出したことから、丹と藤黄地に白緑と推定した。

絵図(部分)

×100(ピーク)

×175(キーエンス)

画像なし

画像なし

画像なし

未調査

未調査

未調査

赤外線写真(部分)

画像なし

未調査

可視反射スペクトル

画像なし

未調査

蛍光X線スペクトル

主成分:Cu

少量成分:Zn

微量成分:Pb

2011/02/22測定

メモ

ポイント№

a

モチーフ

山

色

未調査

推定色料名

未調査

絵図調査日

2009/01/14

未調査

未調査

絵図(部分)

×100(ピーク)

×175(キーエンス)

画像なし

画像なし

画像なし

未調査

未調査

未調査

赤外線写真(部分)

画像なし

未調査

可視反射スペクトル

画像なし

未調査

蛍光X線スペクトル

未調査

未調査

未調査

メモ

特083-0001-36

天保下総国絵図(勘定所本)

作成年代

年

所蔵機関

国立公文書館

ポイント№

a

モチーフ

山

色

未調査

推定色料名

未調査

絵図調査日

2009/01/14

未調査

未調査

絵図(部分)

×100(ピーク)

×175(キーエンス)

画像なし

画像なし

画像なし

未調査

未調査

未調査

赤外線写真(部分)

画像なし

未調査

可視反射スペクトル

画像なし

未調査

蛍光X線スペクトル

未調査

未調査

未調査

メモ

草の汁地に草の汁の点、
藤黄地に丹か

【天保武蔵国絵図(勘定所本)】										
No.	測定箇所	色	XRFによる検出強度 (cps)							
			Ca-K α	Fe-K α	Cu-K α	Hg-L β	Pb-L β	Zn-K α	As-K α	
1	地色	一		0.2						
2	海	紺								
3	川	紺		0.2						
4	道	赤		0.4		2.5				
5	一里塚	黒	0.2	0.3						
6	郡境	黒		0.3						
7	山	薄緑		0.2						
8	〃	薄橙		0.2						
9	〃	薄青		0.2						
10	樹木	松 緑		0.2	5.3			2.2	0.3	
11	城	白	2.0	0.2						
12	村形	豊嶋 明黄	0.3	0.2						
13	〃	荏原 深緑	0.2	0.2						
14	〃	橘樹 山吹	0.5				2.9			
15	〃	久良岐 灰青	0.6	0.2						
16	〃	都築 薄緑		0.2	3.8			0.9	0.3	
17	〃	多摩 桃	0.3	0.2			4.3			
18	〃	新座 薄水	0.6	0.1						
19	〃	入間 薄赤	0.4	0.2						
20	〃	高麗 青	0.5	0.2						
21	〃	秩父 黄		0.2						
22	〃	男衾 緑	0.1	0.1						
23	〃	大里 水	0.4	0.1						
24	〃	比企 赤		0.1		20.9				
25	〃	横見 薄黄	0.2	0.2						
26	〃	足立 薄緑	0.3	0.2						
27	〃	葛飾 薄白	0.3	0.2			0.5			
28	〃	埼玉 薄青	0.5	0.1						
29	〃	幡羅 薄桃	0.2	0.2						
30	〃	榛沢 茶	0.5	0.3						
31	〃	那珂 橙					12.5			
32	〃	児玉 白	0.4	0.2						
33	〃	賀美 灰	1.3	0.3						
34	国	相模 薄黄	0.2	0.5						
35	〃	甲斐 薄赤	1.0	0.6						
36	〃	信濃 濃茶	0.2	0.6						
37	〃	上野 薄緑		0.6	12.2			5.2	1.3	
38	〃	下野 赤		0.1		19.0				
39	〃	下総 茶	0.4	0.8						
40	村形	緑		0.4	6.8			0.8	0.8	
41	〃	緑	0.3	0.2						

【天保下総国絵図(勘定所本)】										
No.	測定箇所	色	XRFによる検出強度 (cps)							
			Ca-K α	Fe-K α	Cu-K α	Hg-L β	Pb-L β	Zn-K α	As-K α	
1	地色	—		0.3						
2	海	薄青		0.4						
3	川	薄青		0.2						
4	道	赤		0.4		2.5				
5	一里塚	黒		0.1		0.4				
6	郡境	黒		0.4						
7	山(古城)	薄緑		0.3						
8	樹木	葉		0.1						
9	〃	葉		0.1						
10	〃	葉		0.4						
11	〃	松		0.2						
12	〃	幹		0.2						
13	〃	葉		0.6		0.2				
14	建造物	屋根		0.3		0.4				
15	〃	柱		0.4		3.5				
16	〃	板		0.4		2.4				
17	村形	葛飾	0.1	0.2						
18	〃	猿嶋	0.2	0.2			0.7			
19	〃	結城				22.7				
20	〃	豊田	0.1	0.2						
21	〃	岡田		0.4			0.6			
22	〃	相馬	0.7	0.4						
23	〃	千葉					29.4			
24	〃	印旛	0.2	0.1						
25	〃	埴生		0.3	11.4					
26	〃	香取	0.9	0.1	0.1					
27	〃	匝瑳	0.3	0.1						
28	〃	海上	0.4	0.2						
29	国	常陸		0.6						
30	〃	下野	1.1	0.2						
31	〃	武蔵		0.3	6.5		0.1			
32	〃	上総	0.1	0.9			0.6			
33	建造物	城	0.5	0.5						
34	国	上総	0.2	2.1			1.7			
35	〃	武蔵		0.8	25.6		0.3	2.0		

〈XRF調査結果に関するコメント〉

【天保武蔵国絵図(勘定所本)】

- ・地色(01)からは微量のFeが検出されるだけである。
- ・海(02)、川(03)の紺色箇所からも微量のFeが検出される。Caはほとんど検出されない。
- ・城(11)の白色はCa系材料による。
- ・道(04)、村形(24)、国(38)の赤色部分からはHgが顕著に検出される。辰砂が遣われていると考えられる。
- ・村形(19、29)、国(35)薄赤色は染料による。村形(31)橙色はPb系材料、山(8)の薄橙色部分からは染料による。村形(17)桃色からもPbが検出されている。
- ・国(36、39)の茶色からは少量のFeが検出された。
- ・村形(12、21、25)、国(34)の黄色系部分からは特徴的な元素は検出されない。染料による着色と考えられる。
- ・樹木(10)、村形(16、40)、国(37)の緑色はCu系顔料であり、ZnとAsが同時に検出されている。山(07)、村形(22、26、41)の薄緑色からはほとんど何も検出されない。染料が使われている。

【天保下総国絵図(勘定所本)】

- ・地色(01)からは微量のFeが検出されるだけである。
- ・海(02)、川(03)の薄青色箇所からも微量のFeが検出される。Caはほとんど検出されない。
- ・城(33)の白色はCa系材料による。
- ・道(04)、村形(19)の赤色部分からはHgが顕著に検出される。辰砂が遣われていると考えられる。
- ・樹木(13)、建造物(14、15)の赤茶色部分からも特徴的に検出されるのはHgである。村形(28)薄赤色は染料による。
- ・国(32、34)の赤茶色からはHgが検出されず、PbとFeが特徴的に検出された。Fe系赤色材料(ベンガラ)が使われている可能性もある。
- ・村形(21、23)の橙色部分からはPbだけが検出される。
- ・国(29)の黄土色部分からはFeだけが検出される。村形(18)の薄黄色部分からはPbが検出されたが材料は不明である。
- ・村形(25、31)、国(35)の緑色はCu系顔料である。国(35)からはZnが同時に検出されている。村形(31)、国(35)からはPbも同時に検出されていることが特徴である。
- ・山(07)、樹木(08、11)の薄緑色からはほとんど何も検出されない。染料が使われている。

〈可視反射分光調査結果に関するコメント〉

【天保武蔵国絵図(勘定所本)】

- ・海(02)、川(03)、山(09)、村型(18、20、23、28)の青色や水色はindigo系染料が使われている。
- ・灰青色の村型(15)と灰色の村形(33)にもindigo系染料が使われているが、それ以外の材料が複数混じっていると思われる。
- ・山(07)、村型(13、22、26、41)の緑色はindigo系染料と黄色染料の混色で表現されていると思われる。
- ・松の葉(10)、村型(16、40)、上野国(37)の緑色は緑青に特徴的なスペクトルを示している。
- ・薄赤の村形(19)と甲斐国(35)、薄桃色の村形(29)は同じ組み合わせの材料によって表現されている。ただし、その混合比は異なる。
- ・相模国(34)の黄色は、他の黄色とは大きく異なるスペクトルを示している。
- ・下総国(39)の茶色はベンガラに特徴的なスペクトルである。他の茶色(30、36)とは明らかに異なる。

【天保下総国絵図(勘定所本)】

- ・海(02)、川(03)、葉(09)、村形(22)の青色や水色はindigo系染料が使われている。
- ・灰色の村形(27)にもindigo系染料の使用が認められる。
- ・山(07)、葉(08)、松の葉(11)、村形(20)の緑色はindigo系染料と黄色染料の混色が考えられる。
- ・一方、武蔵国(31)の緑色は緑青と考えられる。
- ・常陸国(29)の黄色は、他の黄色とは異なる色材と考えられる。
- ・また常陸国の黄色は、天保武蔵の相模国(34)で用いられた材料と同一と思われる。
- ・薄赤の村形(28)と薄桃の下野国(30)はスペクトルが類似しており、複数の材料による混色が考えられる。ただし、下野国では1種類材料が多いと思われる。

Ⅲ 紙継図

《紙継図とは》

近世の国絵図は、何枚もの和紙を継いで作られた巨大な一枚の紙に描かれていた。本科研では、国立公文書館が所蔵する以下の対象図について、描かれた紙がどのように作られているのかを理解するため、継がれた紙一枚一枚のサイズ・継ぎ方・折り目の付け方などを調査した。次項には、この調査結果を図示したものを掲載した。

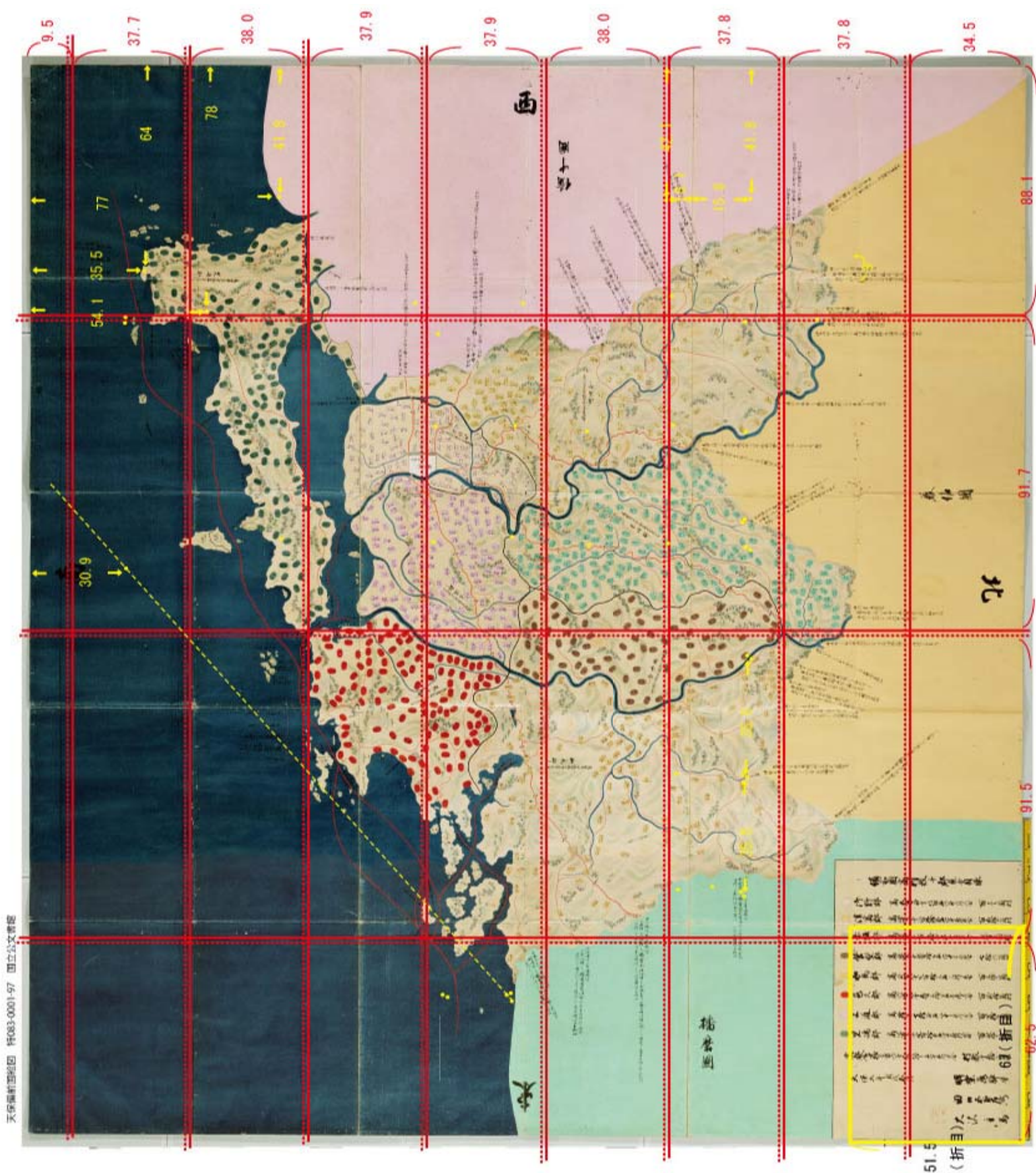
《対象絵図》

- 1 天保備前国絵図（勘定所本）特 083-0001-96 〈2009/12/03,04 調査〉
- 2 天保備前国絵図（紅葉山本）特 083-0001-97 〈2009/05/28,29、12/03,04 調査〉
- 3 天保武蔵国絵図（勘定所本）特 083-0001-31 〈2010/02/22,23 調査〉

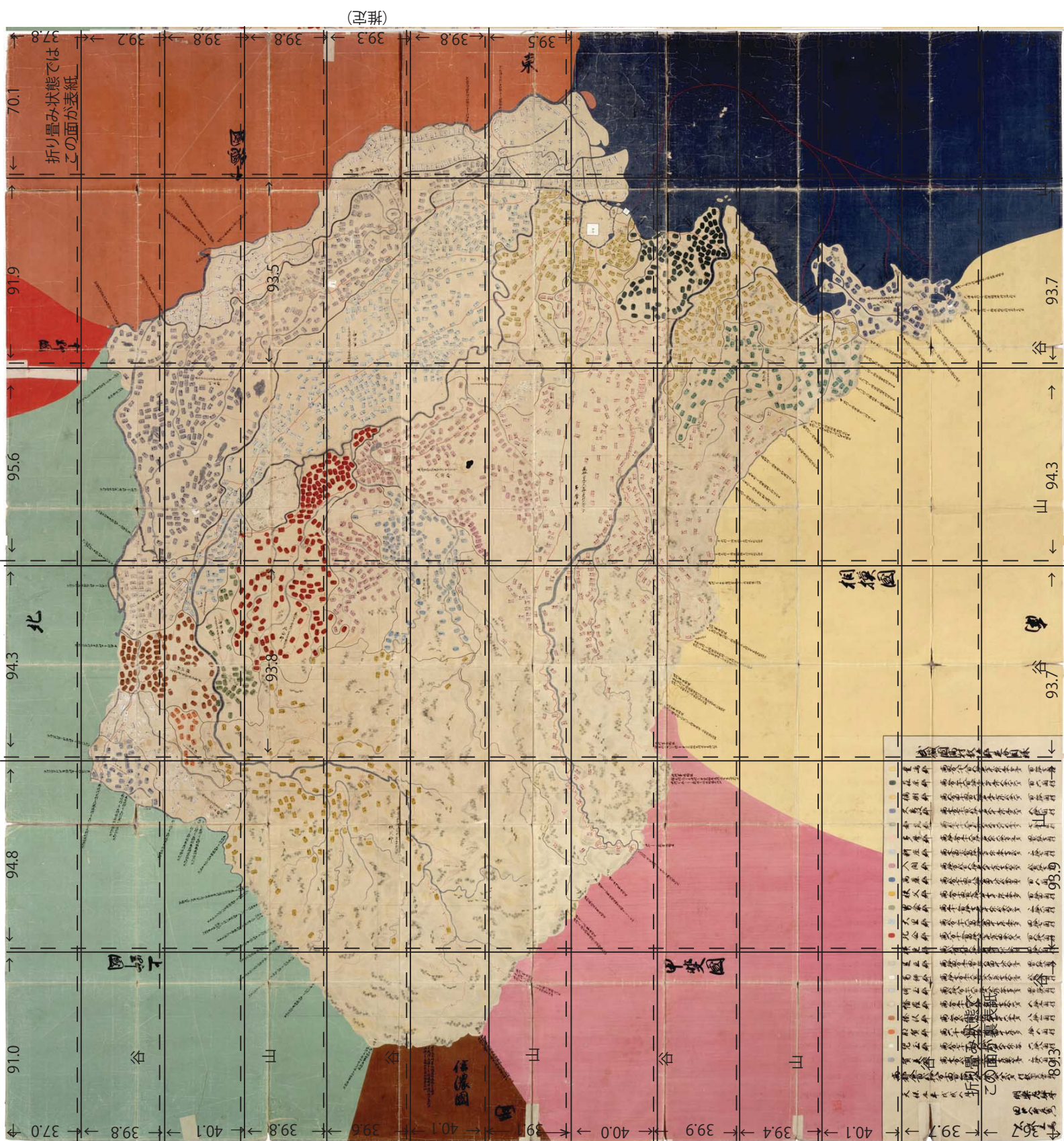
1 天保備前国絵図（勘定所本）



2 天保備前国絵図（紅葉山本）



3 天保武蔵国絵図（勘定所本）



IV 所見

ここでは、下記の対象絵図に対する所見を掲載する。

＜対象絵図＞

- ・ 天保備前国絵図（紅葉山本／勘定所本）

紅葉山本・勘定所本の特定の同一ポイントを比較し、その違いを指摘した。

- ・ 元禄薩摩国絵図

古城跡・番所の位置を絵図上にプロットした数字に対応させて一覧化した。

- ・ 元禄下総国絵図

古城跡・番所の位置を絵図上にプロットした数字に対応させて一覧化した。




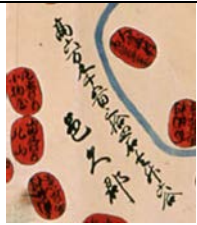
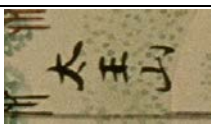
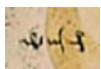

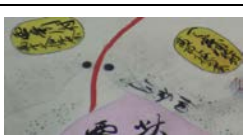




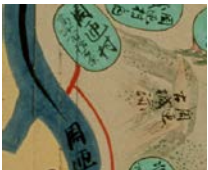



- ・ 天保武蔵国絵図（勘定所本）

描かれた道の表現に対する所見、また史料の破損状況を示した。

城・古城跡・番所・関所の位置を絵図上にプロットした数字に対応させて一覧化し、さらに、その描写方法に対する所見を示した。

〔 1 〕 天保備前国絵図（紅葉山本 / 勘定所本）比較

天保備前国絵図 比較

		天保国絵図備前国紅葉山本 特083-0001 -97	天保国絵図備前国勘定所本 特083-0001 -96
一文字の 波止	紅葉山本では、勘定所本より大きく描かれている。これは元禄のものに近い描き方である。勘定所本のは小さいので西に寄って見える。		
「邑久郡」	紅葉山本と勘定所本とでは、文字の向きが逆		
同じ山に 違う名称	紅葉山本では「太王山」。勘定書本では「金王山」。		
一里塚	勘定書本では、元禄と紅葉山本にはない一里塚が描かれている。		
正木古城	勘定書本では、描写が紅葉山本より細かい。		
鞭木新田 附近	表現の違い		
周匝陣屋 跡	表現の違い		
牛窓村附 近燈台	「燈臺」の文字の向きが、紅葉山本と勘定書本とでは90°異なる。		

元禄薩摩国絵図 古城跡・番所

1	異國船遠見番所	顚娃郡
2	異國船遠見番所	揖宿郡
3	異國船遠見番所	河邊郡
4	異國船番所	河邊郡
5	異國船遠見番所	河邊郡
6	異國船遠見番所	河邊郡
7	古城跡	河邊郡
8	古城跡	給黎郡
9	古城跡	顚娃郡
10	古城跡	揖宿郡
11	異國船番所	揖宿郡
12	異國船遠見番所	河邊郡
13	異國船番所	河邊郡
14	古城跡	河邊郡
15	古城跡	阿多郡
16	古城跡	阿多郡
17	古城跡	河邊郡
18	異國船遠見番所	甑嶋郡
19	異國船番所	甑嶋郡
20	古城跡	日置郡
21	異國船遠見番所	日置郡
22	古城跡	日置郡
23	古城跡	阿多郡
24	鹿兒嶋之城 松平薩摩守	鹿兒嶋郡
25	古城跡	谿山郡
26	異國船遠見番所	甑嶋郡
27	異國船番所	甑嶋郡
28	異國船遠見番所	甑嶋郡
29	異國船番所	甑嶋郡
30	古城跡	甑嶋郡
31	古城跡	薩摩郡
32	古城跡	薩摩郡
33	古城跡	日置郡
34	古城跡	薩摩郡
35	古城跡	薩摩郡
36	古城跡	薩摩郡
37	異國船遠見番所	日置郡
38	古城跡	日置郡
39	古城跡	日置郡
40	古城跡	鹿兒嶋郡
41	異國船遠見番所	高城郡
42	異國船遠見番所	高城郡
43	異國船番所	高城郡
44	古城跡	高城郡
45	古城跡	薩摩郡
46	古城跡	高城郡
47	古城跡	薩摩郡
48	古城跡	薩摩郡
49	古城跡	伊佐郡
50	古城跡	伊佐郡
51	古城跡	伊佐郡
52	異國船遠見番所	出水郡
53	異國船番所	出水郡
54	異國船遠見番所	出水郡
55	異國船番所	出水郡

56	異國船番所	出水郡
57	異國船遠見番所	出水郡
58	古城跡	出水郡
59	古城跡	出水郡
60	番所	出水郡
61	古城跡	出水郡
62	古城跡	伊佐郡
63	古城跡	伊佐郡
64	古城跡	伊佐郡

元禄薩摩国絵図 古城跡・番所分布図



〔 3 〕 元禄下総国絵図 古城跡・番所一覧

元禄下総国絵図

- ①古河城 松平伊豆守
- ②関宿城 牧野備前守
- ③船関所
- ④御殿跡
- ⑤結城 古城跡
- ⑥山川 古城跡
- ⑦守谷 古城跡
- ⑧佐倉城 戸田能登守
- ⑨御殿跡
- ⑩大弓 古城跡
- ⑪多古 古城跡

元禄下総国絵図 古城跡・番所分布図



〔 4 〕 天保武蔵国絵図（勘定所本）道行・破損状況

2011 年 2 月調査 天保武蔵国絵図（勘定所本）についての所見

2011.3 大沢

【道記載】

中山道・東海道の本道と一部の脇道について、国絵図と明治大学図書館所蔵 蘆田文庫 34 - 12 - 3「武蔵國全図」（安政 3 年）の比較を行なったところ、特に脇道の記載に違いが多く見られた。

国絵図にのみ描かれる道がある一方で、逆に「武蔵國全図」にのみ描かれる道もあると、両パターンが存在する（今回確認した範囲では割合は同程度）ため、どちらかが詳細であるということではないと思われる。時期の違いによる道の遷移を示している可能性もあるうか。

なお、「武蔵國全図」は東海道の記載が保戸ヶ谷宿で途絶えているため、この付近は国絵図と異なる（ちなみに「武蔵國全図」でも他の道筋は国境まで描かれている）。

【破損状況】









やぶれが目立つのは、①折り目が交わる部分（特に東西方向＝はじめに折る方向）、②外側部分である。現在、紙継ぎ部分の損傷は確認できた限り 2 箇所である（過去に修復が施された箇所が紙継ぎと関係があるかは未確認）。

特定の箇所の利用と破損の相関関係については、たとえば江戸城付近をひらくと、下になる部分（南から 1 本目と 5 本目の東西方向の折れ線）…他と比べ損傷多め
表に出る部分（南から 2 本目～4 本目の東西方向の折れ線）…他と比べ損傷少なめ
という傾向はありそうだが、実際に関係があったか判断するのは困難か。




〔 5 〕天保武蔵国絵図（勘定所） 城・古城跡

天保武蔵国絵図勘定所 特083-0001 31

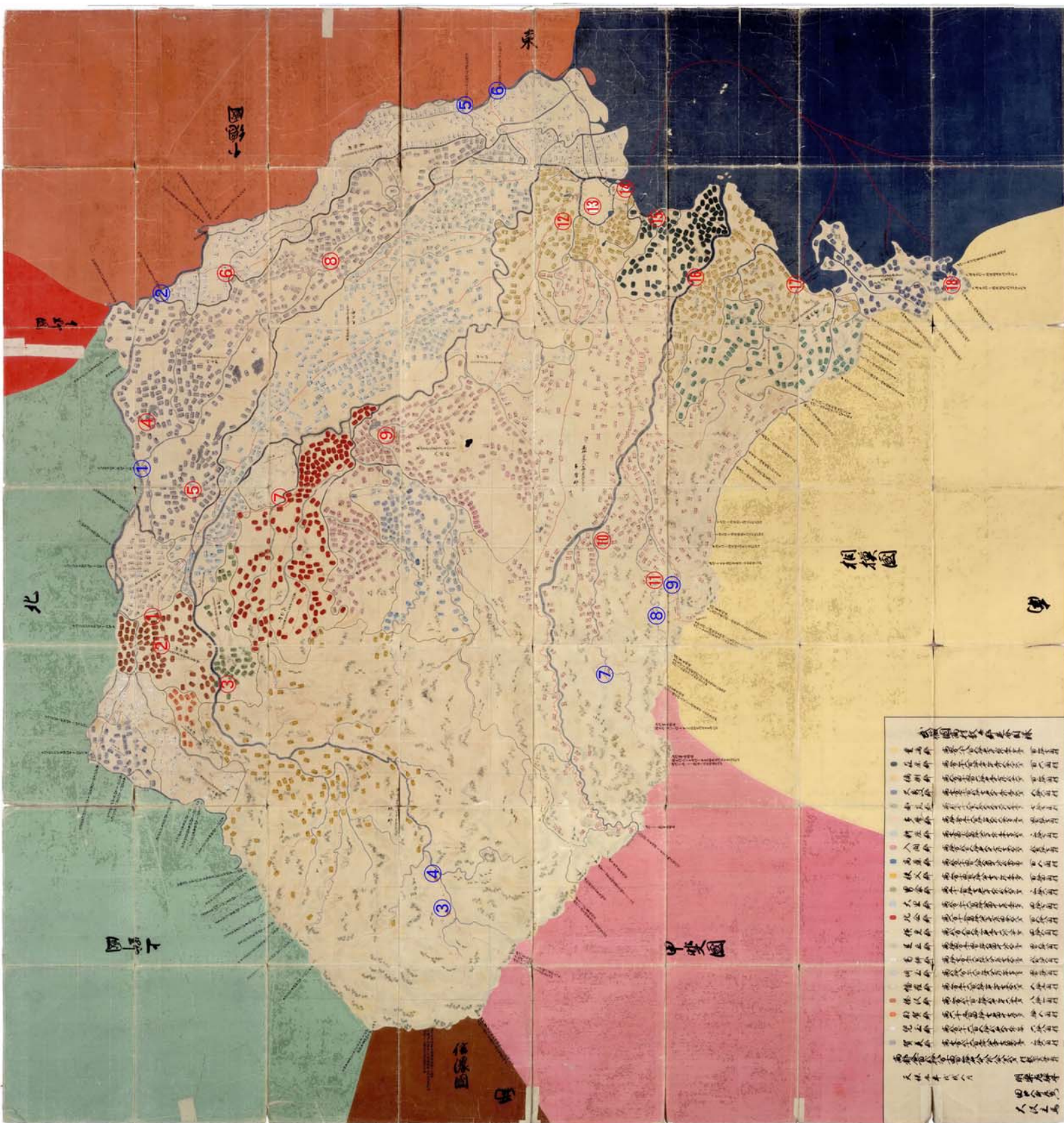
城、および城跡 表現

番号	城名	絵図上の表記	形状	サイズ	画像
1	深谷城	「城跡」	丘状		
2	岡部城(岡部藩陣屋)		白色四角		
3	鉢形城	「鉢形城跡」	丘状		
4	羽生城	「城跡」	文字		
5	忍城	「忍城」	白色四角		
6	幸手城	「城跡」	文字		
7	松山城	「城跡」	丘状		
8	岩付(岩槻)城「岩槻城」		白色(胡粉)	一辺39mmの正方形	

番号	城名	絵図上の表記	形状	サイズ	画像
9	川越城	「川越城」	白色四角	縦40×横34mm	
10	滝山城	「滝山城跡」	文字		
11	八王子城		文字		
12	薬園力		白色四角	縦14×横15mm	
13	江戸城	「御城」	白色四角	縦58×横約60mm	
14	濱御殿	「濱御殿」	白色四角	縦約25×横28mm	
15	御殿跡		白色四角		

番号	城名	絵図上の表記	形状	サイズ	画像
16	丸子城		白色四角		
17	神奈川御殿	「御殿跡」	白色四角		
18	金沢米倉丹後守居所	「金沢米倉丹後守居所」	白色四角	縦30×横18mm	

天保武蔵国絵図（勘定所） 城・古城跡・関所・番所分布図



〔6〕天保武蔵国絵図(勘定所) 関所・番所

天保武蔵国絵図勘定所本(特083-0001 31)における関所の描写について

横地留奈子

天保武蔵国絵図勘定所本には9箇所に関所の描写があった。描かれた関所の要素を整理するとともに、関所を描いた他図と比較して検討する。なお、本稿で示した武蔵国絵図の関所番号は、本書掲載の「武蔵国絵図勘定書本 城・古城・関所所在図」の青色の図中番号に対応する。

〈天保武蔵国絵図勘定所本における関所の描写方法〉(表1)

本図における関所・番所の描写には、家屋のみが描写されたもの、家屋の両脇に柵が描写されたもの、家屋のほかに関所の門が描写されたもの、の3種類に分けられた。該当する関所・番所は、以下の通りであった(表1)。

- ・家屋のみ: 現在の東京都檜原村下組橋橋に立地していた口留番所(図7)、栗橋関所(図2)、金町・松戸関所(図5)、小岩・市川関所(図6)、川俣関所(図1)、栃本関所(図3)
- ・家屋の両脇に柵: 現在の東京都八王子市上恩方町高留に立地していた関場(図8)、小仏・駒木野関所(図9)
- ・家屋と関所の門: 麻生加番所(図4)、小仏・駒木野関所(図9)

描かれている家屋、柵、門の要素は、当時の風景を反映したものであろうか。主に「日本歴史地名大系」(以下大系と略す)の記述を参考として考察する。

東京都八王子市上恩方町にあった関場(口留番所)では、建物と柵が描かれていた(図8)。「大系」には「冠木門をあげ、竹矢来を回し」と記述されている。

また、小仏・駒木野関所は、建物と柵に加えて関所の門も描かれていた(図9)。「大系」では「東西を門で固め、四辺に柵を結び回して」と記述されている。

以上のように、東京都八王子市上恩方町にあった関場と小仏・駒木野関所の描写は、関所の要素を反映させているものと考えられる。

東京都檜原村にあった口留番所(図7)、栗橋関所(図2)、金町・松戸関所(図5)、川俣関所(図1)について、柵はなく建物のみ描かれていた。「大系」には木戸や柵があったと記述されている。

また、口留番所である栃本関所(図3)については、建物のみ描かれていて柵はなかった。「大系」によると「秩父甲州往還に関門が設けられ」と記述されている。

麻生加番所については、建物と柵に加えて関所の門も描かれていた。「大系」によると「関門は設けられず」と記述されている。

以上より、国絵図上の描写の違いは、必ずしも実際の風景の違いを反映したものではないと言える。

〈他図との描写比較〉(表2)

絵図上の表現の特徴を検討するため、関所を描いた各図と描写を比較する。ここでは、絵画、名所図会、道中図を比較対象としてとりあげた。

対象としたのは、新居関所(図1,2)、市川関所(図3)、金町松戸関所(図4,5)、栗橋関所(図6)、箱根関所(図7,8,9,10)である。

図2、図9、および図10は「東海道分間延絵図」、図6は「日光道中」、図5は「関宿多功道件絵図見取絵図」の、それぞれ一部である。「東海道分間延絵図」「日光道中」「関宿多功道件絵図見取絵図」は江戸幕府が命じ道中奉行が作成した五街道分間延絵図である。各街道の詳細な絵図で、寛政年間に作成の命が出され、文化3年に完成した。図2は新居関所、図9および10は箱根関所、図5は金町松戸関所、図6は栗橋関所である。

「遠州荒井崎季秋朝陽図」は、墨江武禪が描いた図である。図中に新居関所が描かれている(図1)。

図3は長谷川雪旦が挿絵を担当した「江戸名所図会」の一部である。同書は、斎藤幸雄(長秋)、幸孝(県麻呂・莞斎)、幸成(月岑)の父子三代編。天保五年(一八三四)・七年に刊行された(七巻二十冊、須原屋茂兵衛・同伊八)。

図4は、嘉永2年に藤原政脩が描いた「小金野鹿狩之記」の一部である。かつての千葉県北部に広がっていた小金牧での狩の様子を示したものである。金町松戸関所が描かれている。

図7は、天保10年に長谷川雪堤が描いた「矢倉沢邑御陣場」の一部である。箱根関所が描かれている。

図8は五雲亭貞秀が描いた「東海道五十三次之内箱根畑宿西之河原風景」の一部である。「東海道五十三次

勝景」と題して万延元年に刊行され、「東海道写真五十三次勝景」と題して明治2年に再刻された。東海道五十三次を山地や海岸から眺望したように描いた鳥瞰図である。箱根関所が描かれている。

各絵図で描かれた関所の様子は、以下の通りである。

新居関所

図1は家屋と門はあるが柵は描かれてなく、建物は入母屋風である。図2には家屋、門、柵が描かれており、図1と2とでは、家屋、門の要素があることが共通しているが、柵は図1にしか描かれていない。

新居関所は東海道新居宿に設置された関所で、現在の静岡県浜名郡新居町にあった。今切関所とも呼ばれていた。安政二年(一八五五)に建替えた建物がもとの場所に現存していると記述される、“国内で唯一現存する関所建物”(国指定特別史跡 新居関所HP)と説明されている。現存する建物の屋根は本瓦葺で、東西に長い平屋建ての入母屋造の建物である。家屋の形状は、図1が現存建物と共通する。

金町松戸関所

図4、5共家屋、門、柵の要素があることが共通している。家屋の形状は、図4は入母屋風で、2棟が縦一列に並んでいるように描かれていた。図5の家屋は2棟がL字型に並んで描かれている。

金町松戸関所は、水戸道が江戸川を渡る金町・下総松戸町間に置かれた関所で、金町村側、現在の東京都葛飾区に番所があった。金町関所とも呼ばれ、「体系」によれば、番所は間口三間半・奥行三間であった。

栗橋関所

図6の建物は、図5の金町松戸関所の建物とよく似ている。栗橋関所は、日光道中栗橋宿、現在の埼玉県久喜市ににあった関所で、中田関、房川渡中田関とも呼ばれていた。「大系」によると「文政四年(一八二一)の関所略図(加藤家蔵)によると約六八〇平方メートルの木柵がめぐられ、石垣内に高札場があった。石段を上った所に約五三平方メートルの番屋が構築されており、庭には捕物用の武器が飾られていた。」とある。ちなみに、栗橋文化会館(イリス)に展示されている関所の模型ではL字型に並んだ建物である(久喜市栗橋観光協会HP)。

箱根関所

図7では門および柵、「大番所・上番休息所」と「外番所」が描かれている。「大番所・上番休息所」は入母屋風に描かれていた。図8では門と、周囲を巡る柵が描かれていた。「足輕番所」と「大番所・上番休息所」の描写があり、三棟とも入母屋風であった。「大番所・上番休息所」は二棟が並列して描かれている。図9では門と、周囲を巡る柵、「大番所・上番休息所」、「外番所」が描かれている。「大番所・上番休息所」は寄棟であった。図10は小さく描かれている。門と、周囲を巡る柵、「大番所・上番休息所」が描かれ、「大番所・上番休息所」は二棟が並列して描かれている。

箱根関所は東海道に設置された関所で、現在の神奈川県箱根町にあった。記述によれば「正面に五〇坪余りの面番所、隣接して箱根宿側に馬屋、元箱根側に高札場、面番所の正面には足輕番所ノ獄屋があり、関所上部の丘の上には湖水の渡海を監視する遠見番所があった」。ちなみに、『「相州御関所御修復出来形帳(慶応元年:1865)」』や発掘結果を基に復元された箱根関所・箱根関所資料館では、江戸よりの門と京よりの門をつなぐ通りを挟んで「足輕番所」と「大番所・上番休息所」、隣接して「外番所」がある。「足輕番所」は入母屋風であり、「外番所」は曲屋風、「大番所・上番休息所」は並列した棟をつないだくど造り風である。周囲には柵が巡らされている(よみがえった箱根関所HP)。

描かれた箱根関所の要素をまとめると、以下の通りとなる。

図7、9、10には、門、柵、「大番所・上休息所」、「外番所」はあるが、「足輕番所」が描かれていない。

図8には、門、柵、「足輕番所」、「大番所・上番休息所」、「外番所」が描かれている。図8に描かれた「大番所・上番休息所」は二棟が並列したように描かれている。くど造りは正面から見ると連結部分が見えず二棟が前後に並列したように見えるため、この図は復元された箱根関所と類似していると言えよう。

以上のように、箱根関所の描写には、門、柵、「大番所・上番休息所」、「外番所」といった共通の要素があるが、絵図ごとでは、その配置や形状がかなり異なることがわかる。

表1 天保武蔵国絵図勘定所 特083-0001 31 関所表現











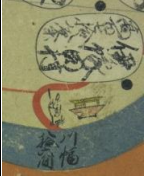



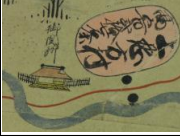













番号	関所名	要素	画像	関所部分拡大	所在
1	川俣関所(別所関・新郷川俣関所・新郷川俣関所跡)	建物			埼玉県羽生市 上新郷
2	栗橋関所	建物			埼玉県久喜市 北栗橋
3	栃本関所(口留番所)	建物			埼玉県秩父市 大滝栃本
4	麻生加番所	建物、関所の門			埼玉県秩父市 大滝麻生
5	金町・松戸関所	建物			東京都葛飾区 金町
6	小岩・市川関所	建物			東京都江戸川区 伊予田
7	口留番所	建物			東京都檜原村下 組橋橋
8	関場(口留番所)	建物と柵			東京都八王子市 上恩方町高留
9	小仏・駒木野関所	建物と柵、関所の門			東京都八王子市 裏高尾町

表2 関所が描かれた図一覧

関所名 \ 分類	絵画	名所図会	道中図
新居関所	 <p>(図1) 遠州荒井崎季秋朝陽図 新居関所資料館 蔵</p>		 <p>(図2) 東海道分間延絵図 東京国立博物館 蔵</p>
市川関所		 <p>(図3) 江戸名所図絵 ゆまに書房 蔵</p>	
金町松戸関所	 <p>(図4) 小金野鹿狩之記 国立公文書館 蔵</p>		 <p>(図5) 関宿多功道件絵図見取絵図 東京国立博物館 蔵</p>
栗橋関所			 <p>(図6) 日光道中 東京国立博物館 蔵</p>
箱根関所	 <p>(図7) 矢倉沢邑御陣場 国立公文書館 蔵</p>	 <p>(図8) 東海道五十三次之内箱根畑宿西之河原風景 神奈川県立歴史博物館 蔵</p>	 <p>(図9) 東海道分間延絵図 東京国立博物館 蔵</p>
			 <p>(図10) 東海道中絵巻 豊橋市二川宿本陣資料館 蔵</p>

註:参照した名所図会等は以下の通り

江戸名所図絵 二十 市川渡口 根本橋 利根川 :第7巻20冊145丁 (japanknowledge 江戸名所図会ライブラリ), 株式会社ゆまに書房 蔵.

五街道其外文間延絵図之内「関宿多功道件絵図見取絵図」(葛飾区郷土と天文の博物館(2002)『金町松戸関所一将軍御成と船橋一』), 東京国立博物館 蔵.

墨江武禅 遠州荒井崎季秋朝陽図(葛飾区郷土と天文の博物館(2002)『金町松戸関所一将軍御成と船橋一』), 新居関所資料館 蔵.

金町村御関所(葛飾区郷土と天文の博物館(2002)『金町松戸関所一将軍御成と船橋一』), 国立公文書館 蔵.

矢倉沢邑御陣場『相中留恩略記』長谷川雪堤, (神奈川近世史研究会編集(1994)『江戸時代の神奈川一古絵図で見る風景』, 株式会社有隣堂), 国立公文書館 蔵.

五街道分間延絵図「日光道中」(葛飾区郷土と天文の博物館(2002)『金町松戸関所一将軍御成と船橋一』), 東京国立博物館 蔵.

東海道五十三次之内箱根山中ヨリ三寫口至風景(豊橋市二川宿本陣資料館(2003)『空から見た東海道 五雲亭貞秀』), 神奈川県立歴史博物館 蔵.

東海道中絵巻 (神奈川県立歴史博物館(2001)『東海道宿駅制度四〇〇年記念特別展「江戸時代の東海道一描かれた街道の姿とにぎわい」』), 豊橋市二川宿本陣資料館 蔵.

児玉幸多 監修(1979)『東海道分間延絵図 五街道分間延絵図全百三巻之内 第四巻 絵図編』 東京美術 東京, 東京国立博物館 蔵.

児玉幸多 監修(1981)『東海道分間延絵図 五街道分間延絵図全百三巻之内 第十一巻 絵図編』 東京美術 東京, 東京国立博物館 蔵.

参考

秩父市教育委員会文化財保護課HP. 入手先 <<http://www1.city.chichibu.lg.jp/bunkazai/02-04-03shishiseki.html#麻生加番所跡>>, (2011-9-14 アクセス).

国指定特別史跡 新居関所HP, 入手先 <<http://hamaguru.com/sekisho/>>, (2011-09-29アクセス).

久喜市栗橋観光協会HP, 入手先<<http://www3.ocn.ne.jp/~kurihasi/Kankou.html>>, (2011-12-12アクセス).

日本歴史地名大系. ジャパンナレッジ・プラス.(オンラインデータベース), 入手先 <<http://www.jkn21.com/>>, (2011-09-28 アクセス).

よみがえった箱根関所, 入手先 <<http://www.hakonesekisyo.jp/index.html>>, (2011-12-20アクセス).